

◇今月号の「とびら」では、「ぶんせき」の情報発信について紹介されています。情報発信の方法が多様化する中で、「ぶんせき」をどのように届けていくかは課題です。こうした変化を考えると、まずはその本質を考える必要があるでしょう。長く続いているものほど、その本質・意味を改めて考える機会は案外少ないことに気付かされます。

◇今月号のミニファイルでは、ボルタンメトリーで用いられる略語が紹介されています。略語は、長い言葉を簡潔に伝え、限られたスペースを有効に使える便利なものであり、現在でも日常的に使われています。一方で、AIの活用などにより大量の情報を扱うことが容易になり、その使われ方が今後さらに変化していけば、「短くする」ことの意味も、少しずつ変わっていくのかもしれませんが、もっとも、PDCAのように、略語そのものが一つの概念として定着しているものもあります。

◇リレーエッセイでは、PDCAを「Passion（情熱）⇒Design（計画）⇒Challenge（挑戦）⇒Apologize（謝罪）」とする言葉遊びが紹介されています。略語の本質が「短く伝えること」だとすれば、こうした言葉遊びは本来の目的とは少し違いますが、私は結構好きです。

[H. Y.]

〈とびら〉

企業における分析化学の役割……………林 徹太郎

〈入門講座〉 精密な定量解析を支える網羅分析：基礎技術から実践の応用まで
イオン付着質量分析法による有機化合物の

網羅的スクリーニング……………沖 充浩

〈ミニファイル〉 Abbreviations in 分析化学（分析化学で使われる略号）
生物化学分析で用いられる略語……………磯崎 勇志

〈話 題〉

シングルセルメタボロミクス技術の進展……………古庄 仰

◇ 編 集 委 員 ◇

〈委員長〉 鈴木 保 任（金沢工大バイオ・化学）

〈副委員長〉 山口 浩 輝（味の素（株））

〈理 事〉 山口 央（茨城大理）

〈幹 事〉 半田友衣子（埼玉大工）

鹿籠 康 行（東北大金材研）

〈委 員〉 村 山 周 平（昭和医科大薬）

石 橋 千 英（愛媛大院理工）

角 田 誠（国際基督教大教養）

澤 田 奎 太（ライオン（株））

西 崎 雄 三（東洋大食環境科学）

中 屋 佑 紀（北大院工）

北 川 慎 也（名古屋工業大工）

岸 川 直 哉（長崎大院医歯薬学）

北 牧 祐 子（産業技術総合研究所）

岡 崎 琢 也（工学院大学先進工）

田 原 佳 代 子（九州医療科学大薬）

古 野 忠 秀（愛知学院大薬）

岡 林 識 起（日大生物資源科学）

原 田 誠（東京科学大理）

宮 川 晃 尚（広島大院先進理工）

稲 川 有 徳（宇都宮大院地域創生科学）

黒 木 康 生（サイエンス・フィジック）

宇 田 亮 子（奈良工業高専）

鎗 田 孝（茨城大農）

高 柳 学（ジョエルサイエンス）

大 江 知 行（東北大院薬）

佐 藤 貴 弥（日本電子（株））

萩 森 政 頼（武庫川女子大薬）

管 原 庄 吾（島根大学術）

[R] 複写される方へ

日本分析化学会は学術著作権協会（学著協）に複写に関する権利委託をしていますので、本誌に掲載された著作物を複写する場合は、学著協より許諾を受けて複写してください。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル3階

一般社団法人 学術著作権協会

FAX：03-3475-5619 E-mail：info@jaacc.jp

なお、複写以外の許諾（著作物の転載願い等）は、学著協では扱っていませんので、直接日本分析化学会へお尋ねください。

ぶんせき 2026 年 第 9 号（通巻 621）

2026 年 9 月 1 日印刷

2026 年 9 月 5 日発行

定価 1,250 円

編集兼発行人 公益社団法人 日本分析化学会

印刷所 〒173-0025 東京都板橋区熊野町 13-11

株式会社 双文社印刷

発行所 〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-26-2

五反田サンハイツ 304 号

公益社団法人 日 本 分 析 化 学 会

電 話 総務・会員・会計： 03-3490-3351

編集： 03-3490-3537

FAX：03-3490-3572 振替口座：00110-8-180512

© 2026, The Japan Society for Analytical Chemistry

購読料は会費に含まれています。